

アカゲラ



北海道神宮 2007年10月18日。年度最終作業を午前中に終え、帰り支度を始めていましたが、アカゲラの声が盛んなので確認のためカメラをもって接近しました。正殿に向かう参道左側の境内林の中で鳴きながら飛ぶ1羽を別の1羽が追いかけていました。逃げる方がメスで追いかける方がオスのペアリングのためのじゃれあいだろうと思って見ていました。しかしです。ペアリングにしては時期はずれなので???. 逃げる方は声高に鳴きながらなのですが、いまいち真剣味が感じられず、同じ辺りをぐるぐるまわったり、いったりきたりするだけなのです。幾度かシャッターをきりましたが、まともらしく出来た一枚をご覧ください。カメラに収めた2羽を比較してみますとほぼ同じメスの装いなので???

この写真と状況から判断しますと母親が成長した娘を縄張りから追い出す「子離れ」の行為であると判断いたしました。

アカゲラは北海道では季節を問わず普段にみられる代表的なキツツキです。下腹部の鮮やかな赤色は雌雄共通ですが、オスは頭にも赤いベレー帽をかぶっているような装いなので雌雄の区別は明確にできます。森の中でもしばしば声を出してくれますので、姿は見えなくても存在が確認できます。分布も広く数も多いと思っています。

北海道神宮の境内林は林縁に所々ニセアカシヤが侵入していました。それらが大木に育ち郷土樹達に紛れていましたが、先の18号台風でその多くが倒れました。大木の倒木は危険です。さらに鎮守の森が外来樹にのさばられているのは好ましくないので、風倒木の整理を進めながら撲滅に挑戦したわけです。この夏に裏境内林に残っていた大木を神宮側がプロに依頼して伐採してくれました。残すは正面鳥居の正殿に向かって直ぐ右手の大木1本のみとなりました。この大木は宮の沢通りの車道にも近く、場所が場所だけに空師と呼ばれる特殊技術を持つプロ中のプロでしか扱えない代物と思います。

台風直後から係わりましたが、今はすっかりきれいになりました。神宮の森らしくなっています。われわれボランティアがこれから手伝う仕事は境内林に関してはニセアカシヤの萌芽刈を年に1~2度やることぐらいしかなくなりました。結構なことと喜ぶ次第であります。



アカゲラを観察している私に対してエゾリスが盛んに牽制するのです。「邪魔者。あっちに消えろ」と怒っていることは承知しますが、「ちょっと待ってくれ」とお願いしましての観察結果でございました。この時期エゾリス達は食料豊富な時期で食べきれないのであちらこちらに食べ物を隠す仕事で忙しいようでした。